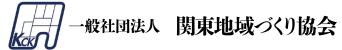


協会だより





協会だより

第 9号 令和元年7月

- 定時総会報告 第7回 定時総会
- 4 理事長あいさつ
- り 関東地域づくり協会からのお知らせ

勤続精励職員表彰 関東地域づくり講演会を開催しました 第68回 利根川水系連合・総合水防演習 展示・体験コーナーに出展 各事務所・自治体の水防訓練で実技指導――防災エキスパート 令和元年度 関東「道の駅」連絡会通常総会が開催されました 令和元年度公益事業紹介

8 社会資本に関する話題

平成31年度 関東地方整備局 関係予算について 八ッ場ダム本体コンクリート打設が完了 中部横断自動車道 新東名高速道路~中央自動車道間の約7割が開通

10 **プロジェクトK⑤**

暮らし・経済を支える幹線道路の災害対応 長野県 国道19号安庭地区災害復旧

14 **関東の河岸めぐり**®

須賀湊 神奈川県

16 関東の土木遺産の

小河内ダム 東京都

18 会員のひろば

五十からの手習い

19 会員情報

新会員紹介・お悔やみ 編集委員会だより

20 ピックアップ 関東の道の駅 ⑤

地元の観光資源、特産物を生かして、 愛される道の駅に 道の駅「いたこ」



表紙の言葉

中野未羽さん(東京都共立女子高等学校)

跳べ

この写真は当協会が主催する第31回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部金賞に選ばれた東京都共立女子高等学校の中野未羽さん作品です。「この写真は修学旅行でハウステンボスに行った時のものです。頭上のカラフルな傘が魅力的で、その下で友人に、脚が私の納得する形になるまで何回もジャンプしてもらいました。この作品は私ひとりでは完成できなかったものです。これからも様々な人との関わりを大切に、写真を撮っていきたいです」。「跳べ」という面白いタイトルに若さあふれる女性の姿をとらえた点が評価されました。

第7回定時総会



令和元年6月14日(金)、大手町サンケイプラザ(東京都千代田区大手町)において、令和元年度第7回定時総会が開催されました。梅雨の時期で天気が心配される中、総会には会員1,332名中1,142名(うち委任状提出者752名)と大勢の会員が出席され、会場に用意された椅子はほぼ満席となりました。

総会では、冒頭に奥野理事長によるあいさつが行われ、議長、議事録署名人が選出されました。その後、 議事である第1号議案の平成30年度事業報告及び決算



藤田紘一郎氏による講演

について事務局より説明があり、引き続き、監事から の会計監査報告、第2号議案の役員選任に関する件が 提案され、それぞれ承認されました。

また、令和元年度事業計画及び予算について、事務 局から報告がされました。さらに、今後の協会の事業 展開と資産の活用について、奥野理事長から説明があ りました。

最後に、総会に届けられた祝電が披露され、定時総会は無事に終了となりました。

定時総会終了後は、休憩を挟んで例年どおり講演会が行われました。今年度は東京医科歯科大学名誉教授である藤田紘一郎氏をお招きし、「免疫力を高める生活のすすめ――食べ物から笑いまで」と題してお話しいただきました。中央スクリーンにさまざまな資料を映しながらの、体験や逸話に笑い話を織り交ぜた、会員の皆さんがますます元気になるようなお話は、とても分かりやすく、笑い声が絶えない中あっという間に時間が過ぎました。

講演会終了後は、懇談会で多くの会員が旧交を温めました。

第7□ 定時総会

理事長あいさつ

奥野晴彦



皆さまこんにちは。本日はご多忙のところ、またあいにくの天候の中、一般社団法人関東地域づくり協会の定時総会に出席いただき、ありがとうございます。 開会に先立ち、一言ごあいさつ申し上げます。

新年の『協会だより』のあいさつでも申し上げましたが、昨年は本当に災害の多い年でした。また、今年は亥年で、災害に警戒が必要な年といわれています。半年が経ちましたが、引き続き厳重な警戒が必要です。昨年に象徴されるように、平成時代全体を通じ、災害の多い、厳しい時代でありました。また、グローバル化が進展し、世界のどこかで起こったことが、我が国に大きな影響を与えることとなり、内外の諸問題に、これまで以上に的確な対応が求められる時代でもありました。新しい元号の令和は、ビューティフルハーモニーという英訳もあるそうですが、活気ある、美しい、調和のある社会を構築するには、引き続き微妙かつ大胆な舵取りが求められる時代になると思います。

さて、災害に強い、強靱な国土を形成するため、3 年間の重点投資を行う予算手当が行われました。これ を契機として、いろいろなインフラの強化、健全化を 進めなければなりません。

関東地方のインフラも着々整備が進んでいます。八ッ 場ダムも一昨日打設完了式が行われました。今年度内 の完成を目指し、鋭意整備が進められています。さらに、 管内の道路ネットワーク整備も着実に進展しています。 今後とも、充実していくインフラの着実なメンテナン スに加え、まだまだ十分とはいえないストックのさら なる蓄積も必要です。

一方、最近、いろいろな面での人手不足、要員不足

が顕著になってまいりました。整備局も例外ではありません。インフラの整備管理を、効率的かつ着実に進めるため、いろいろな面で民間の力を活用する、PPP業務の需要が増大してきました。この業務は、事業を進めるに際し、地元や関係機関との協議調整、設計や工事を受注した企業との連絡調整などを行う業務です。私たちの協会の特質は、会員や職員の経験に裏打ちされた現場での技術力、ノウハウにあります。PPP業務はこのような特質を生かすにふさわしい業務の一つだと思います。このPPP業務をはじめ、私どもが力を発揮できる局面は、今後とも多岐にわたると考えます。そのための体制を整備し、協会に対する幅広い期待に応えていく必要があると考えています。

防災エキスパート活動も協会に対する期待の高い業務の一つです。防災エキスパート活動にあたっては、会員の皆さまに大変お世話になっており、改めて厚くお礼申し上げます。約800名のエキスパート登録者の高齢化も進んでいますが、人生100年時代も遠くない時機に到来するようです。引き続きお元気で協力いただけるようお願いいたします。

本日は、平成30年度の事業報告、決算、令和元年度の事業計画、予算に加え、役員改選について審議いただきます。また、昨年の総会あいさつで申し上げました、協会の今後の活動と資産の活用について、現在までの検討状況を報告いたします。

皆さまの活発な審議をお願いいたします。

終わりに、皆さまの一層のご発展とご健勝を祈念い たしまして、開会のあいさつといたします。

勤続精励職員表彰

6月17日(月)、関東地域づくり協会表彰規定に基 づいた勤続精励表彰式が当協会本部会議室におい て執り行われました。

今年度は、業務企画部に所属する重信敏秀調査 役が勤続30年で表彰されました。奥野理事長はじ め役員立ち会いの下、表彰状と記念品が手渡され、 受賞者は緊張した面持ちで受け取られました。奥野 理事長からは、これまでの働きへの感謝と今後への 期待の言葉が贈られました。

> 写真/左から 渡邉理事 奥野理事長 重信敏秀調査役 後藤専務理事



地震発生時刻に



関東地域づくり講演会 参加者全員で黙祷 「大規模災害にどう備えるか!! 平成の大災害を教訓にして」を開催しました

3月11日(月)、永田町の星陵会館にて、当協会主催、 国土交通省関東地方整備局と公益社団法人全国防災協 会の後援により関東地域づくり講演会「大規模災害にど う備えるか!!――平成の大災害を教訓にして」を開催し ました。

講師には、越智繁雄氏((一財) 河川情報センター業務 執行理事) と、片田敏孝氏(東京大学大学院情報学環特 任教授、群馬大学名誉教授)をお招きし、越智氏は「災 害に負けない国づくり・地域づくり・社会づくり」と題し

て、片田氏は「大規模災害に向かい合う日本社会のこれ まで、そしてこれから」と題してご講演いただきました。

当日は東日本大震災発災から8年目にあたり、講演途 中の地震発生時刻14時46分に、参加者約270名全員 で、犠牲になられた方々に対して黙祷を捧げました。

参加者アンケートでは「どちらの講演も、ほかでは聞 けない本質に迫った内容で感動した|「自己の経験を踏 まえた貴重なお話を聞くことができた」と、両講演ともに 大変参考になったとの感想を数多くいただきました。





第68回 利根川水系連合・総合水防演習 展示・体験コーナーに出展

5月18日(土)、国土交通省および関東1都6県(栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)、並びに開催地である足利市の主催により、第68回利根川水系連合・総合水防演習が栃木県足利市五十部町地先(渡良瀬川左岸38.6km付近)で開催されました。

当協会ではパネル展「災害から学ぶ。備える。首都直下 地震・河川の災害」と、防災エキスパートの協力によるな

わ結び・土のうづく り体験コーナー、 水防工法展示場で の水防工法の説明 を行いました。



防災エキスパートによる水防工法説明

当日は天候にも恵まれ、報道では演習参加者・見学者 含め約1万6,000人が来場したとのことで、当協会の体験 コーナーにも大勢の人が訪れ、なわ結び、土のうづくりを 体験していました。



なわ結び体験コーナー

各事務所・自治体の水防訓練で 実技指導――防災エキスパート

当協会が事務局を務める防災エキスパートが、各事務所・自治体で行われた水防訓練に参加し、なわ結びや土のうづくり、シート張り工や、積み土のう工、月の輪工などの水防工法について実技指導を行いました。防災エキスパートが参加した水防訓練は以下のとおりです。参加された防災エキスパートの皆さま、お疲れさまでした。

●久総川水糸連合水防訓練	5月	25日 (土)
●筑西市消防団水防訓練	5月	26日(日)
●京浜河川事務所水防訓練	5月	30日(木)
●利根川栗橋流域水防事務組合水防訓練	6月	2日(日)
●霞ヶ浦河川事務所内水防実技訓練	7月	3日(水)

京浜河川事務所の水防訓練で 水防工法を指導する防災エキスパート



^{令和元年度} 関東「道の駅」連絡会 通常総会が開催されました

5月29日(水)、茨城県常陸大宮市文化センターにおいて、当協会が事務局を務める関東「道の駅」連絡会の通常総会が開催されました。多数の会員が参加した同総会では、会長である石井裕南房総市長のあいさつに続き、収支決算報告、予算等について審議が行われました。総会終了後には、東京農業大学学術研究員の中山幹生氏を中心に、地元生産者、道の駅関係者により「道の駅における地域活性化」をテーマにしたミニパネルディスカッションが開催され、道の駅における地元産品を使用した商品開発や、当時の苦労話などについて貴重な討論が繰り広げられました。その後は、道の駅「常陸大宮」に移動し、さまざまな取り組みについて駅長から説

明を受けました。次回は栃木県内での開催が予定されています。





令和元年度 公益事業紹介

3月20日(水)公益助成事業審査会(外部委員2名含む)において、 令和元年度(平成31年度)の公益助成事業の申請98件が審議され、74件が採択されました。

地域活性化

全17件

人口減少、少子高齢化が進む社会の中で衰退している地域社会において、環境保全や観光、文化、歴史、自然等の地域資源を活用する事業への支援を通じて、地域づくり、地域活性化に寄与することを目的とする事業。

事業名

- ●棚田再生を活用した持続的環境保全 及び地域活性化事業
- ●やんば1万本桜プロジェクト
- ●中部横断自動車道(富沢~南部)開通 プレイベント事業 ほか



棚田再生を活用した持続的環境保全及び地域活性化事業(埼玉県横瀬町)

調査研究・技術開発

全4件

大学・団体・企業等を対象に技術開発・研究費用の一部を支援するとともに、社会資本の記録・整理・整備に関する研究活動への支援を行うなど、広く社会資本の整備の推進に寄与することを目的とする事業。

事業名

- ●江東内部河川活用による江戸・東京の 下町文化の再発見と地域活性化
- ●水辺の森育成調査及び自然観察 ほか



江東内部河川活用による江戸・東京の下町 文化の再発見と地域活性化

防災

全12件

災害時の防災エキスパートおよび当協会職員等による災害対応支援活動および平常時の防災のための公共施設点検、防災意識の向上、啓発等の広報活動支援を通じて、災害時の迅速かつ的確な対応に寄与することを目的とする事業。

事業名

- ●防災エキスパート活動支援事業
- ●災害復旧事業技術講習会
- ●市民防災まちづくり塾 ほか



災害復旧事業技術講習会

講演会等

全6件

河川や道路等の社会資本の整備が、防災、治水、利水、物流、観光等地域社会や経済等に果たしている役割等について、講演会やセミナーの開催、優良な工事に対する表彰等を通じ、広く理解を深められることを目的とした事業。

事業名

- ●北千葉道路建設促進期成同盟特別講 演会
- ●河川愛護講演会 ほか



北千葉道路建設促進期成同盟 特別講演会

環境保全

全24件

関東地域内に残る自然環境の調査、保護、再生に取り組む活動への支援、河川や道路等の社会資本を清掃・美化する活動への支援、地域の自然に興味を促すことで環境愛護の精神を育む活動への支援を通じ、地域に貢献することを目的とする事業。

事業名

- ●関東・水と緑のネットワーク形成プロジェクト
- ●道路、河川愛護活動のためのボラン ティアサポートプログラム
- ●渡良瀬遊水地貴重植物保全事業 ほか



渡良瀬遊水地貴重植物保全事業

広報

全11件

河川や道路等の社会資本の役割や重要性などについて、新聞・映像・テレビ HP等で広く報じることにより、地域住民等の社会資本への理解が深められることを目的とした事業。

事業名

- ●道のある風景写真コンクール
- ●中学生体験学習(校倉風木造倉庫建設・ 測量体験・重機操作体験) ほか



道のある風景写真コンクール

平成31年度

関東地方整備局 関係予算について―直轄事業は5%増の5,943億円

3月29日 (金)、関東地方整備局から平成31年度予算の概要 が公表されました。総事業費は2兆942億円(対前年度比1.09 倍)で、内訳は、直轄事業費が5,943億円(対前年度比1.05 倍)、補助事業費が1兆4,999億円(交付金を含む。対前年度比 1.11倍)となっています。

予算区分と主要事業の概要は以下のとおりです。

■総括表(直轄事業+補助事業)

(単位:百万円)

		平成31年度				国庫債務負担行為
区分	平成30年度	直轄	補助	合計	倍率	(ゼロ国債)
治水	127,029	131,779	23,631	155,410	1.22	4,419
海岸	3,778	4,525		4,525	1.20	
道路	335,801	307,818	89,045	396,863	1.18	11,519
港湾	76,693	71,328	16,666	87,994	1.15	231
空港	54,293	44,909		44,909	0.83	
住宅対策	56,071		73,238	73,238	1.31	
市街地整備	150,098		129,675	129,675	0.86	
都市水環境整備	7,756	10,702		10,702	1.38	
下水道	452		1,748	1,748	3.87	
国営公園等	5,871	6,080		6,080	1.04	
社会資本総合整備	1,095,851		1,165,894	1,165,894	1.06	
一般公共事業計	1,913,693	577,141	1,499,897	2,077,038	1.09	16,169
官庁営繕	7,532	17,128		17,128	2.27	
合計	1,921,225	594,269	1,499,897	2,094,166	1.09	16,169

- ※別途河川関連の災害復旧事業予算を配分予定。
- ※空港の金額は、東京国際空港配分第の55、関東地方整備局の執行分。 ※社会資本総合整備は、「社会資本整備総合交付金」と「防災・安全交付金」がある。 ※計数はそれぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは一致しない場合がある。

■主要事業の概要

事業の名称	事業の概要	平成31年度予定
鬼怒川緊急対策プロジェクト (河川激甚災害対策 特別緊急事業)	「平成27年9月関東・東北豪雨」を踏まえ、鬼怒川下流域(茨城県区間)においては国・茨城県・鬼怒川沿川7市町村が主体となり、「ハード対策」と「ソフト対策」が一体となった治水対策「鬼怒川緊急対策プロジェケト」を実施している。国においてはその一環として、鬼怒川の再度災害防止のため、決壊した堤防等の復旧、無堤地区の堤防整備、高さや幅が足りない堤防のかさ上げや拡幅、洪水時の水位を下げるための河道掘削などを、令和2年までに緊急的・集中的に実施し、治水安全度の向上を図る。	施する予定。 ・堤防整備に伴い、排水の確保のため樋管の改築を実施する予
荒川第二·三調節池 (大規模改良工事)	荒川流域は東京都と埼玉県にまたがっており、流域内に日本の人口の約8%が集中する地域である。特に埼玉県南部および東京都区間沿川は、人口・資産が高密度に集積する地域。 荒川の治水安全度向上のための抜本的な対策として、広い高水敷を活用した調節池の整備を実施し治水安全度の向上を図る。	・用地取得、対岸堤防整備等を実施する。 [平成31年度事業費:約12.9億円]
八ッ場ダム建設事業	首都圏を支える利根川水系において、洪水被害の軽減や安定的な水資源の確保等に寄与するハッ場ダムを建設する。 ▼諸元:重力式コンクリートダム高さ116m総貯水容量1億750万m³	・生活再建事業として、付け替え道路工事、代替地整備等を実施する予定。 ・ダム本体工事を継続して実施する。 「平成31年度事業費:約271.6億円]
首都圏中央連絡自動車道	首都圏中央連絡自動車道は首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、都心から半径およそ40~60kmの位置に計画された総延長約300kmの環状の高規格幹線道路である。平成29年2月には茨城県区間が全線開通し、圏央道全体約300kmのうち約9割がつながった。	
東京外が〈環状道路(関越~東名)	東京外かく環状道路(関越〜東名)は東京の中心から半径約15km地域 を結ぶ延長約85kmの環状道路のうち、東京都市圏の都心方向に集中 する交通を適切に分散、導入し、東京都市圏の均衡ある道路網体系を 確立する関越道から東名高速までの延長約16kmの事業である。	・早期開通に向け、調査設計、用地買収、区分地上権設定、橋梁 下部工事、トンネル工事、改良工事を実施する予定。 [平成31年度事業費:約200.0億円]
中部横断自動車道	中部横断自動車道は上信越自動車道、中央自動車道、新東名高速道路を結ぶ広域高速ネットワークを形成し、物流の効率化、緊急医療活動の支援、災害時の代替道路の確保等を目的とした、日本列島の中央部を南北に結ぶ延長約132kmの高速自動車国道である。	・ 富沢IC 〜六郷IC間の約28kmについては、富沢IC 〜南部IC間は2019年夏頃、南部IC 〜下部温泉早川IIC間は2020年内の開通を目指し、調査設計、橋梁上部工事、トンネル工事、改良工事、舗装工事、施設工事を実施する予定。 [平成31年度事業費約337.0億円]

八ッ場ダム本体コンクリート打設が完了

八ッ場ダム本体建設工事は、平成28年6月に開始してから約3年で本体コンクリート打設が完了し、6月12日(水)に国会議員、群馬県知事など来賓と関係者を集めて本体打設完了式が開催されました。



本体打設完了後、令和元年度中の完成を目標に設備工 事、試験湛水や代替地整備等が進められています。



中部横断自動車道 新東名高速道路~中央自動車道間の約7割が開通

国土交通省関東地方整備局と中日本高速道路株式会社(NEXCO中日本)により事業が進められている中部横断自動車道は、3月10日(日)、新清水JCT~富沢IC間(NEXCO中日本)と下部温泉早川IC~六郷IC間(国土交通省関東地方整備局)が開通しました。これにより新東名高速道路~中央自動車道間の約7割(約74kmのうち約54km)が開通したことになります。

今後はさらに整備を進め、2020年内にはこの区間が全線開通する予定です。

今回の開通により、静岡県と山梨県の物流・輸送の効率化や清水港からインバウンド観光のさらなる増加等による静岡・山梨の観光周遊の拡大等が期待されています。







南部IC(静岡方面を望む)



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、 苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。

今回は、福吉孝雄さん、徳嵩公明さん、篠原正美さんとともに、 平成16(2004)年の台風22号で大規模な崩落が起きた国道19号

国道19号災害復旧 安庭地区 白馬長野 有料道路 安庭IC

安庭地区を 訪れました。

福吉孝雄さん

清水建設株式会社土木総本部部長。昭和44年入省、 平成19年退職。



徳嵩公明さん

一般財団法人道路新産業開発機構 ITS/新道路創生本部プロジェクトマネー ジャー。昭和54年入省、平成29年退職。





篠原正美さん

株式会社大本組東京本社土木 部部長。昭和53年入省、平成 30年退職。





12長野市安庭地先で起きた国道19号の大規模な崩落。 約12時間かけてゆっくりと滑落したという

●②以下●③⑦⑨写真は『平成16年台風22号による安庭災害復旧までの記録』(長野国道事務所)より



③3連休の初日に起こった土砂災害で、 急な対応を迫られたと思い返す3人

異常降雨が引き起こした 想定外の道路災害

平成10 (1998) 年の長野オリンピック開催に合わせて、会場となる白馬村と長野市を結ぶ道路の整備が行われた。長野県が管理する白馬長野有料道路である。長野市信更町安庭でこれと接続するのが国道19号。名古屋市から長野市へと至る幹線道路で、地域住民にとっては生命線ともいえる大切な道路だ。

平成16(2004)年10月9日土曜日。この国道19号安庭地区で、大規模な地滑り災害が発生した。2車線が200mに渡って崩落したのである。これで、上下線とも通行不可能になってしまった。白馬長野有料道路も、同様に激しく崩れ落ちた。

当日の様子を、長野国道事務所所長であった福吉孝 雄さんはこう語る。

「大雨を伴う台風が来るというので、前日から事務所に 災害対策支部を設置し、私は当日も各所との連絡を行っ ていました。昼頃に上陸した台風22号が大雨を降らせな がら長野県を通り過ぎました。その夕方です。地元の消 防団員から『安庭で道路にクラックが入っている』と連絡が入ったのです|

事務所は一気に緊迫し、非常体制に移行した。

その年は、例にない異常気象で台風が10個も上陸し、全国各地で洪水や土砂崩落などによる災害を引き起こしていた。普段は雨の少ない長野県もこのときばかりは異常なほどの降雨。そのため甚大な被害が起きてしまったのだ。

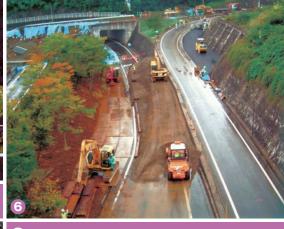
3連休初日のこの日、工務課長であった徳嵩公明さん、調査課長であった篠原正美さんはともに休みで、それぞれ大宮、高崎の自宅に帰っていたが、夕方になって急遽、長野に呼び戻された。

「私は夜の10時頃に現場に着き、先に監視していた職員と交代しました。地滑りというと一気に崩れ落ちるさまを想像されるかもしれませんが、実際には約12時間かけてゆっくりと滑り落ちていったのです。車に待機していると地面がひび割れる不気味な音が聞こえ、少し時間をおいて外に出ると、先程まで道路だったところがなくなっている。怖かったですよ」と徳嵩さん。

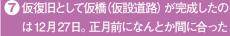
「道路が動いている最中は、最終的にどこまで滑るか分



4 大きく崩れ落ちた道路。右手に公園のモニュメントが見える



6 応急復旧の迂回路工事は急ピッチで進め られた





本復旧後に 撤去された 迂回路の跡



5 市が整備した公園も地滑りした。今は緑あふれる姿に戻っている



からない。結果的に、10日未明にかけて幅100m、長さ200mが滑落し、土砂は下を流れる犀川にまで達しました」(福吉さん)

国道東南側の上部にある集落には避難命令も出ていたが、幸い地滑りは国道までで止まった。

翌10日には、国・県・市・警察・消防などの合同調整会 議を実施してマスコミ向けに記者会見を開き、同日夜に は、安庭地区の住民向けの説明会も行った。

「地元の方々が30人ほど集まりました。しかし『これからどうなるのか』『いつ復旧するのか』と聞かれても、調べてみないと答えられないことばかり。まずは現場の状況を知らせ、これから原因を調べて復旧を行うことを伝えました」と篠原さんは振り返る。

「二次災害を防ぐため、現場の法面にはすぐさま伸縮計や水位計を設置し、監視カメラもつけました」(篠原さん)。 サイレンによる避難誘導も徹底したという。

正月前に仮復旧を! 皆で協力し、力を尽くした

福吉さんによると、道路災害の場合、早急に行うべきは次の3点だ。

- ①通行止めを早期に回避する迂回路の設定
- ②被災道路の仮復旧により通行機能の早期回復
- ③調査結果を基にした専門家による発生要因・発生メカニズムの解析と評価

そして、最終的にはこれらの結果を基に、リスク低減 や二次災害防止など、災害時の安全管理の対応策までき ちんと検討するのである。

福吉さんはこれらのプロジェクトのリーダーとして陣頭 指揮を執った。最優先は、通行止めの解消である。職員 の士気は高く、迂回路は7日間で確保。被災道路の仮復 旧は、山側に仮橋を設けることで実現し、60日間で工事 を終えたという。仮橋の開通は同年12月27日。「正月前 になんとかしよう!」が合言葉だった現場で、そのとおり、 年内に迅速に対処したのだった。

その間には、台風22号により土石流などの被害があった別の箇所の復旧、10月20日に再び到来した台風23号による被災箇所の復旧、10月23日に起きた新潟県中越地震への対処と、目まぐるしく対応に追われた。

「いろいろなことが同時進行で、寝る暇もなかったです。 ホテルに泊まり通しのこともあり、慣れない洗面台でぎっ くり腰になってしまったのも思い出です」と話す篠原さん も、住民への説明会を繰り返し、丁寧に説明を行った。

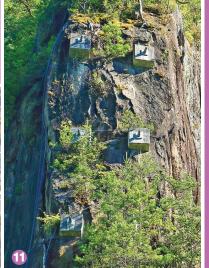
徳嵩さんも、「地元の業者の皆さんは非常に協力的で、 ありったけの鋼管杭と矢板を提供してもらいました」と振 り返る。

当時、長野国道事務所の職員は、出張所も合わせて 100名程度。人手も足りず、本局からも大勢応援に来ても らったという。

「迂回路の設定や仮橋の工事、道路仮復旧などの現場

⑨ ⑩ 国道19号本復旧工事中の様子。再度災害を避けるため、土砂を盛らず橋梁構造に。本復旧の完成を見ることなく事務所を去った3人は、久しぶりの現場に、当時の苦労が蘇る





11 12 13

国道19号には落石などの危険が指摘されている箇所も多い(山清路地区①)。道路の防災について、福吉さんは所長として平成15年に田中康夫知事(当時)への説明を行った(②)。現在は平成8年以来の計画を基にバイパス・トンネル工事が進められている(③)







の責任者として工務課長の徳嵩さんが、住民や道路利用者への説明と、現地の計測管理の責任者としては調査課長の篠原さんが、それぞれによく動いて、昼夜を問わず対応してくれました。この2人をはじめ職員も地元の建設業者の皆さんも、懸命に取り組んでくれました。ありがたかったですね」(福吉さん)

急峻な地形に沿って走る国道19号再びの災害を避けるべく、整備は続く

国道19号は、長野県内では犀川沿いの急峻な地形に沿って走っている。平成8(1996)年に道路防災総点検が行われ、道幅の狭さや、地滑りや岩盤崩落などの危険があるなど、対策が必要とされた箇所が複数あった。福吉さんは、平成15(2003)年に所長に着任した直後に、田中康夫知事(当時)と長野県の幹部職員に対し国道19号の防災について説明を行ったこともある。

特に危険視されてきたのは、安庭地区から車で30分ほど下った山清路地区。風光明媚な名所として知られるが、切り立った崖の上に大きな岩が幾つもあり、アンカーで固定されている。

篠原さんは調査課長として調査や計画にも携わっており、当時から計画されていた防災計画路線の建設が、今着々と進んでいる。橋が架かり、トンネルの位置が決められ、幹線道路として、また地域の生活道路として人々が安全に通行できる道づくりが進められている。

福吉さん、徳嵩さん、篠原さんは平成15年4月に着任 し、平成17年3月末まで長野国道事務所に勤務した。と もに働いた2年間で、この国道19号災害は忘れられない 現場だという。

工務課としては、「平成16年3月に国道20号バイパスが開通してほっとしていたところだった」と徳嵩さん。虚をつくような地滑り災害だった。

平成16年当時、国道19号安庭地区は長野オリンピック道路として整備されたばかりの箇所で、危険視もされていなかった。それでも大きな地滑りが起きたのは、やはり異常降雨の恐ろしさである。近年の災害にも通じるものがあると3人は振り返る。

道路建設とは違い、災害対応は突然起こる仕事だ。経験がないと対処できないことも多々ある。

「思い返せば、2年間で一番苦労した仕事です。しかし 災害への対応をここで学ぶことができた。貴重な経験で した」(福吉さん)

復旧に向けての手順や地元への対応、原因の究明、 再発防止のための関係各所との連携の取り方など、この ときの対応は、反省の材料として、「もしも」のための備え として、記録にして残されている。

国道19号本復旧は平成19(2007)年11月30日に完了 した。本復旧を見ることなく事務所を去った3人が、揃っ て現場を訪れるのは久しぶりのこと。緑が茂る公園に佇 み、当時の苦労に思いを馳せていた。

相模川と相模湾2つの舟運をつないだ須賀湊



かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。 その証として各地に残るのが河岸です。 それらの河岸の歴史と現在を訪ねるシリーズ。 第16回は神奈川県平塚市の須賀湊(すかみなと)を紹介します。



昭和11(1936)年頃の須賀湊の様子を映した 絵葉書(平塚市博物館蔵)

水運上の重要拠点として栄える

看質技術は相模川が相模湾に注ぐ河口付近に位置する河岸です。自然の地形を生かした天然の港として早くから開けていました。この地には平安時代に伊豆から空海が来航し、庵を結んでいたという興味深い伝説も残っています。

須賀湊は元亀元 (1570) 年に北条氏から麦130表を熱海へ輸送することを命じられたり、相模川上流から運ばれた材木が集積され、海路で運び出されるなど、次第に水運の要所として発展していきました。

江戸時代前期には、須賀湊の回船(沿岸を結ぶ荷船)は 鎌倉郡や高座郡など広範囲の幕領年貢米の輸送を一手に受 け持っていました。また、相模湾を通ってやってくる回船から は砂糖や塩、肥料、ござや傘などの日用雑貨が運び込まれ、 須賀湊からは白炭や薪、杉板、米などを運び出していました。 回船の主な往来先は伊豆、江戸、房総半島だといわれていま す。相模川の舟運も盛んでした。相模川上流からは炭や薪、 米などが高瀬舟で運ばれました。帰りは肥料や塩、日用雑貨 を積んで川を上ったそうです。

須賀湊には湊の利用にあたり「湊口二十間余大船は入らず、四百石積の船を限度とす」という決まりがありました。四百石積み以上の回船は湊口が狭く須賀湊に接岸できないため、集められた物資は一度荷揚げ場(河岸場)に積み上げ、後で沖に停泊した回船に小船で運んだといいます。逆に回船から湊に運び込まれた物資は高瀬舟に積まれ、川上の村々へ運ばれていました。

須賀湊を擁する須賀村は大いに栄えました。『新編相模国 風土記稿』によると、東海道の宿場町である平塚宿の家数が 289軒なのに対し、須賀村の家数は一村で452軒。その繁栄 ぶりがうかがい知れます。他国の船乗りも多く滞在し、湊には さまざまな地域の情報が集まっていたとされています。



鉄道開業を機に衰退していく湊

「大山千軒、須賀千軒」といわれるほど栄えた須賀湊。しかし、その栄華にも陰りが見え始めます。元禄期になると、須賀湊が一手に担っていた年貢米の輸送を武州金沢(現・横浜市金沢区)や三浦郡長井村(現・横須賀市)なども行うようになり、競争は激しくなりました。背景には、相模国の経済発展による流通量の増大があったと考えられています。須賀湊だけでは大量の物資を扱いきれなくなったのです。

were the continue of the conti

明治20 (1887) 年には東海道本線が開通し平塚駅が開業 します。これを機に須賀湊の回船業は衰退し活気を失いま す。須賀村は鉄道開通以降、漁業の町となっていきました。

現在、かつての須賀湊一帯は住宅街になっていますが、「千 石海岸」や「札場町」など、湊の面影を感じられる地名を随所 で見ることができます。往時の湊の繁栄を思い浮かべながら、 散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。



東京の水不足を想定して造られた

今回ご紹介する土木遺産は、東京都西多摩郡奥多摩町にある小河内ダムです。多摩川上流域を水源とし、集水域は奥多摩町のほか、山梨県小菅村、丹波山村、甲州市の4市町村にまたがり、流域面積は約263kmに及びます。

ダムの水は、直下にある多摩川第一発電所で発電に利用されたのち、多摩川に放流。小作取水堰と羽村取水堰で水道原水として取水され、自然流下により、村山・山口貯水池や玉川上水を経て東村山浄水場および境浄水場へ、また導水ポンプを経て小作浄水場へ送られます。小河内ダムは急増する水需要を背景に、東京都第二水道拡張事業として昭和7 (1932) 年に築造計画が決定しました。江戸時代からの水道水源である多摩川流域にダムサイトの建設場所を求めたところ、丹波山や水根、麦山など9地点の候補地が挙がり、各地点での貯水量や地盤状況、かかる費用などから水根地点が選ばれました。これに伴い、小河内村などの945世帯が移転をすることとなります。

昭和13(1938)年11月12日に着工しますが、昭和18(1943)年に第二次世界大戦の戦局激化により工事は中断。終戦後、昭和23(1948)年9月に再開し、昭和32(1957)年11月26日に、およそ19年の歳月と約150億円の総工費をもって竣工しました。建設中に87名が殉職し、現在では湖畔に慰霊碑が建てられています。完成から60年以上経過した現在も、東京の貴重な水がめとして安定給水を支えています。

国内外の 当時の最新技術が取り入れられた

小河内ダムは非越流型直線重力式コンクリートダムで、高さ149m、長さ353m、有効貯水量は約1億8540万㎡と国内最大の規模を誇る水道専用ダムです。建設当時、国内では70m級のダムが多く、大規模ダムの建設に注目が集まりました。工事は、昭和11(1936)年に竣工したアメリカのフーバーダムの工事報告書などアメリカの事例を参考に、技術者たちが慎重に議論を重ねながら進められました。「中でもコンクリートの温度管理に細心の注意が払われた」と東京都水道局小河内貯水池管理事務所の永

小河内ダム空撮 (写真提供:公益社団法人土木学会)



関東の土木遺産第37回

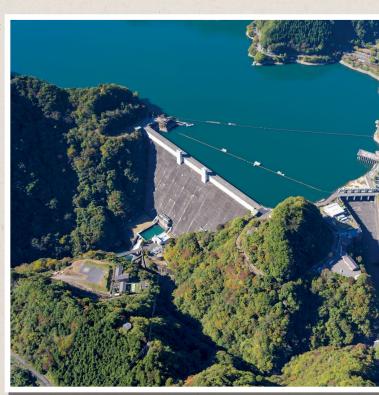
国内最大の水道専用ダム

小河内ダム

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、 「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第37回は東京都西多摩郡奥多摩町にある小河内ダムです。





堤頂に見える白い棟は エレベーター塔 (手前) と展望塔(奥)

> 左岸側から見たダム 堤体。その迫力は見 る者を圧倒する

岡伸明さんは話します。

大規模なダムを造るにあたり、膨張や収縮によるコンクリートのひび割れを防ぐ技術が用いられたそうです。「小河内ダムは柱状工法で建造されています。 当時、発熱量の少ない中庸熱セメントが日本でも施行可能になったことにより、堤軸方向15m、堤軸直角方向30m、高さ1.5mの直方体の大きな体積のブロックで打設されました。 コンクリートの配合も、熱の発生を抑えるため、セメントの量を可能な限り減らすよう設計されています」(永岡さん)

それだけではなく、夏場の打設には骨材を冷却し、練り混ぜる水に冷却水またはフレークアイスを使用するプレクーリング工法と、あらかじめ埋め込んだパイプに水を通してブロック内部を冷やすパイプクーリング工法を採用し、コンクリートの温度を下げる工夫がなされました。反対に冬場は寒さが厳しいため、30~40℃の温水をセメントに混ぜていたといいます。

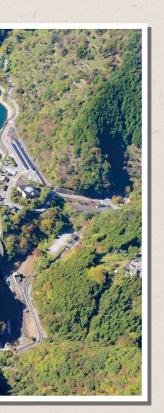
ほかにもさまざまな工夫が凝らされ、4年4ヵ月をかけて、168万㎡のコンクリートが打設されました。

これからも 東京の水道水を支えるダムとして

小河内ダムは、平成30 (2018) 年度に選奨土木遺産に 認定されました。土木学会は選奨理由を「昭和32年に完成した貯水容量約1億8,540万㎡を誇る国内最大の水道 専用ダムであり、東京の安定給水を支える重要な土木遺産」であると述べています。これについて、東京都水道局 浄水部の桑原勇太さんは次のように話します。

「国内で前例がない大規模ダムの建設に挑み、技術と知恵をもってダムを完成させた先人たちの努力。そして完成後60年以上にわたり、維持管理に携わってきた多くの人々の尽力。ダムと、そこに関わる人々の仕事が評価につながっているのだと思います」

小河内ダムは観光客も多く、ダム堤体にある展望塔からの眺めや紅葉を楽しみに、昨年はおよそ4万8,000人が訪れました。四季折々の表情を見せる小河内ダム。これからも東京のオアシスとして多くの人に親しまれていくでしょう。



余水吐水門(下)と余水吐(右)。洪水時に、 ダムの安全を確保するための放流施設



堤頂から堤体を見下ろす。中央左の白い 建物は多摩川第一発電所



利根川水系の渇水時に放流量を増加させるために造られた第二号取水施設。昭和55(1980)年に竣工。現在は多摩川の冷水対策にも利用している



昭和32年7月、ダム上流側の仮 排水路を締め切り、一部湛水を 開始したときの様子 『小河内ダム竣工50年のあゆみ』より



このページは 会員の皆さまの 投稿によるページです



新幹線で実家の青森へ

今年の地域づくり協会総会、講演の藤田先生によれば「寿命125年」は可能とのこと。改めて健康寿命「人生100年」を意識させられた。公務員渡世を卒業してもう65歳。50過ぎからの自分の生活・趣味を改めて振り返ると、俺の生き方も意外と良いかも? ということで、私の「五十からの手習い」などを紹介します。

55歳で犬を飼う

そろそろ子供も巣立つし犬でも飼おうかと、平成22年8月、近所のブリーダーから 5万円で安く譲り受けた柴犬。子犬はかわいくて、名前を「理子」とした。

飼い方が分からないのでしつけ教室にも 通う。犬のしつけではない。飼い主のしつ けである。バカ犬は飼い主の責任であると 改めて理解させられる。

犬がいることで、実家の青森まで新幹線で一緒に帰ったり、犬の泊まれる宿に夫婦で出かけたりと、シニア夫婦の潤滑油にもなっている。当然、毎日の散歩は健康にも最高だ。

平成24年度からは長野国道に単身赴任。土日は自慢の娘「理子」に会うために家に帰って、リフレッシュ。妻には家に帰る口実でもあり、「理子」さまさまである。

56歳から津軽三味線を習う

局の道計二課にいた平成23年4月、さいたまスーパーアリーナで開講しているNHKカルチャー教室に通った。若い頃ギターを弾いたことがあるので「吉田兄弟」のように弾けないかなーと単純な動機である。

津軽三味線の良いところは、周りで習っている人がいないので、多少下手でもそれなりにうまく聞こえることである。それが長

野国道で実証された。

まずは工務課の飲み会で披露することに。 わざわざ私の宿舎(東和田)の近くで飲み 会をやるというので、みんなの意向を察して 余興として10分ほど弾かせていただいた。

次は、長野国道のOB会での演奏。亡くなられた田辺さんがクラシックギターを、設楽副所長がフォークギターを、そして私が津軽三味線。余興があるととても和むもので楽しい懇親会となった(むむ、味を占めてきた)。

最後が「佐久女性みちの会」の10周年記念。「現役事務所長から何か」との主催者命で、僭越ながら余興として15分ほど演じることになったのである(おお、津軽三味線さまさま)。

発表の場があるということは良いもので、それに向けて練習し上達もする。さらには、新しい曲を頭と指に記憶させ、ちょこっと華麗に指さばき。ボケ防止にはうってつけである。なお、妻からは長野の時よりも数段上手くなっているよとうれしい主観的な評価もいただいている。

60歳にて奈良町自治会の防災担当に

退官してまもなく自治会の班長が回ってきた。妻は「私はもう出ないわよ」の一言で私が自治会に参加する羽目に。ちょうどタイミングが悪く、防災部長が空席、急遽引き受ける羽目になってしまった。

今は、地元で「地区防災計画」を策定 すべく、危険箇所の点検や防災訓練、補 助金申請などを担当、土日を中心に現役さ ながらのことを行っている。

投稿依頼を受けて、30年後を見据えて どう暮らすのか、どう暮らしてきたのか。 改めて振り返った次第である。

OB会で津軽三味線を

五十からの手習い



柳谷哲

(株)NIPPO 関東第一支店 技術担当部長元 関東地方整備局 長野国道事務所長









平成31年2月~ 50音順・敬称略

新会員をご紹介します 新しく51名の方々が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

1912	尺としかは	
氏名		現勤務先
相沢	興	(株) 片平新日本技研
浅井	修治	(一財) 橋梁調査会
新井	賢司	(株)安藤・間
新井	正	(一財) 全国建設研修センター
石鉢藍		NP0 日本水フォーラム
伊藤一	-十三	(一財) 河川情報センター東京センター
伊藤	芳則	(株) ニュージェック
猪股	和義	セントラルコンサルタント(株)
上原	重賢	関東建設マネジメント(株)
長田	勝宏	日本ユーティリティサブウェイ (株)
生島	賢治	福田道路(株)東京本店
小渕	光昭	(株)ケージーエム
海賀	始	関東建設マネジメント(株)
窪田	光作	(株) 千代田コンサルタント
小池	栄史	川崎地質(株)
小池	信一	(一社) 関東地域づくり協会
甲村	謙友	(一財) 国土技術研究センター
小林	薫	関東建設マネジメント(株)
昆	敏之	関東建設マネジメント(株)
今	春彦	(株) ガイアート
齋田	紀行	(一社) 全国土木施工管理技士会連合会
齊藤	泉	関東建設マネジメント(株)
佐藤	常人	(一社) 建設電気技術協会
設樂	隆久	(株) 建設環境研究所
清水	謙司	(株) ユーディケー
清水	俊明	神稲建設(株)

氏名		現勤務先
白石	栄一	(公社) 全国防災協会
関	一雄	大林道路(株)
高野	匡裕	日本国土開発(株)
髙橋	忠臣	関東建設マネジメント(株)
滝沢	貞男	小雀建設(株)
田畑	和寛	(公財) 河川財団
塚崎	敬治	株木建設(株)
鶴巻	和芳	国土防災技術(株)
泊	宏	(一社) 全日本建設技術協会
長尾	哲	(公財)高速道路調査会
中原	浩慈	若築建設(株)
中村	彰男	日本ユーティリティサブウェイ(株)
中本	繁	関東建設マネジメント(株)
中山	利美	(一社) 日本建設機械施工協会
深沢	哲也	大日本土木(株)
星野	博	関東建設マネジメント(株)
俣島	信一	関東建設マネジメント(株)
宮内	重春	関東建設マネジメント(株)
村尾	公一	東日本旅客鉄道(株)
安田	泰二	日本ユーティリティサブウェイ(株)
栁澤	一正	古郡建設(株)
矢野	利男	(公財)河川財団
山崎	隆	大有建設(株)
山下	真治	(一社) 関東地域づくり協会
横坂	利雄	(株) 新井組

お悔やみ申し上げます 14名の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

氏名		逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
武藤	富雄	平成30年10月	長野国道 建設専門官
江崎	碩修	平成30年12月	常陸 副所長
寺﨑	江二	平成30年12月	江戸川 出張所長
劍持	貴	平成31年1月	企画部 技術調整管理官
丸山	久栄	平成31年1月	総務部 契約管理官
柴田	久治	平成31年2月	江戸川 出張所長
清水	博	平成31年3月	本省 大臣官房付

宮嵜 晶二 平成31年3月 首都国道 用地課長 相場吉五郎 平成31年3月 大宮国道 経理課長 青山 俊行 平成31年4月 本省 北海道局長 小林 聰介 平成31年4月 用地部 用地計画官 藤森 實 令和元年5月 利根水系 副所長 大久保光弥 令和元年5月 中部 企画部長	氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
青山 俊行 平成31年4月 本省 北海道局長 小林 聰介 平成31年4月 用地部 用地計画官 藤森 實 令和元年5月 利根水系 副所長 大久保光弥 令和元年5月 利根川上流 副所長	宮嵜 晶二	平成31年3月	首都国道 用地課長
小林 聰介 平成31年4月 用地部 用地計画官 藤森 實 令和元年5月 利根水系 副所長 大久保光弥 令和元年5月 利根川上流 副所長	相場吉五郎	平成31年3月	大宮国道 経理課長
藤森 實 令和元年5月 利根水系 副所長 大久保光弥 令和元年5月 利根川上流 副所長	青山 俊行	平成31年4月	本省 北海道局長
大久保光弥 令和元年5月 利根川上流 副所長	小林 聰介	平成31年4月	用地部 用地計画官
7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	藤森 實	令和元年5月	利根水系 副所長
後藤 侃 令和元年5月 中部 企画部長	大久保光弥	令和元年5月	利根川上流 副所長
	後藤 侃	令和元年5月	中部 企画部長

編集委員

[関東地域づくり協会]

澤田晋 堤盛良 中村一夫

野橋明彦

前田隆徳

[会員] 望日美知

望月美知秋 ((株) 日水コン) 田中良彰 (大成建設 (株)) きていきたいものですね。(編集委員 S・S) 会員のほとんどの方が昭和に生まれ育ち、学問し、社会人となって、30~40年ほど仕事に励けばアッという間に新しい時代、令和を迎えらけばアッという間に新しい時代、令和を迎えられたことでしょう。 人生100年時代、小さなことにくよくように感じています。

上上しい時代、令和となって3カ月ほど経ち、大木ました。会員の皆さま方には、いかがお記しでしょうか。 お仕事をされている会員の皆さま方には、いかがおお出事になりますが、10連体の前半は平成の開の過ごし方をされたのではないでしょうか。 郡味や旅行、家族との団らんなどいろいろな時趣味や旅行、家族との団らんなどいろいろな時恵味や旅行、家族との団らんなどいろいろな時恵味や旅行、家族との団らんなどいろいろな時恵味を行い、少しだけですがスッキリとした気持ちとなりました。後半は妻の実家へ帰省し、ちとなりました。後半は妻のようには年本である。が、10連体もアッという間に過ぎてしまい、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、歳を追うごとに時の流れが早くなっていまれ、

編集委員会だより

関東の、首の馬尺



道の駅いたこ



県道101号沿いの道の駅 いたこ。カシマサッカースタ ジアムまでは車で約15分

地元の観光資源、 特産物を生かして、 愛される道の駅に

道の駅「いたこ」は平成14年の4月にオープンして以来、 江戸情緒と自然を楽しめる「水郷潮来」「水郷潮来あやめ園」、 鹿島アントラーズの本拠地「カシマサッカースタジアム」などを 訪れる人々に利用されてきました。新名物を生み出すべく 六次産業化を進める道の駅「いたこ」の取り組みを紹介します。

自然風景とスポーツツーリズムを 組み合わせる

東関東自動車道の潮来ICからほど近く、県道101号に面す る道の駅「いたこ」。Jリーグ鹿島アントラーズの本拠地「カシ マサッカースタジアム」はここから車で約15分。道の駅がスタ ジアムへの玄関口にあたります。「試合開催日には鹿島アント ラーズや対戦チームのサポーターが大勢いらっしゃいます。こ れまでアントラーズのパネル展を開催したりグッズを販売した りしてきましたが、新たに、周辺地域への観光回遊化などを 推進する『アントラーズホームタウンDMO』と連携し、地域を 活性化していく予定です」と話すのは副駅長の掛水了さん。

スポーツといえば、道の駅に併設のグラウンド・ゴルフ場も 地元の高齢者や家族連れに大人気。毎月のようにコンペを 行っており、これを楽しみにしている方も多いのだとか。

また、平成30年に日本風景街道に登録された「いたこあ やめ 花街道」と連携し、道の駅「いたこ」の周囲にも四季折々 の花を植え、観光客の目を楽しませています。花々の管理は 地元の有志、生産者、取引先などが加わったボランティアと 協力して行っています。「植え替えは100人ほどが集まって一気 に行いますし、毎週の水やりや手入れも、皆さんの協力あって のこと。地元の皆さんが積極的に参加してくださるのがあり がたいです|(掛水さん)

地元の特産物で新たな名物づくり

道の駅「いたこ」が、六次産業化の一つとして商品化したの が、新たな名物「フォー」です。潮来市は米どころですが、米消 費は減少しています。米を原料とした商品としては、これまで にも米粉どらやき「虹どら」を生産・販売してきました。

「もっと若い人々にも受け入れられる商品をと考えたとき、候 補になったのがベトナム麺『フォー』です。地元産の米を使っ た生麺と、具材である鶏肉・牛肉それぞれに合わせたスープが 自慢です」と総務課の給前優さん。米の種類から試行錯誤し た麺づくりには3年を要したそう。隣接する行方市と潮来市 で栽培されているパクチーはなんとのせ放題! かわいいキッ チンカーで、スタジアムやDMOが開催するスポーツイベントな どにも出店し、着々とファンを増やしています。毎日食べに来 る方もいらっしゃるようです。

地元の人々にも愛される道の駅「いたこ」。これらの取り組み が評価され、平成30年度重点「道の駅」に選定されました。





子育て世代に配慮した移動式授乳室が好 評。災害時用の風力発電などとともに、 地域の人の支援に役立てたいという

地元の事業者やボランティアとともに フラワーロードを整備。植え替えなど は100人ほどが集まって一斉に行う



直売所にずらりと並ぶ 生産者の顔写真が、あ たたかい雰囲気を醸し 出している



地元の米を使ったフォーが今一番の目玉! キッチン カーでスタジアムやイベントにも出店している。「お いしいとリピートしてくださる方もたくさん。ぜひ一





